

## 話すことや聞くことから書くことへ

英語 第3学年

野々市町立野々市中学校・教諭

### 1 事例の概要

実践的コミュニケーション能力の基礎を養うために、話すことや聞くことを中心として表現力をつけるための工夫を日常の授業で実践している。しかし、実際には、質問に対して単語や単文で応答できても正確で完全な英文で答えられず、中心となる答え以外に補足説明などができない生徒が多かった。さらに、あるテーマに沿って表現しようとする、語彙・文法・文の構成などの負担が大きいことに加えて、自分の考えをまとめることに慣れていないことから、一定の時間内に内容豊かなまとまりのある文を書ける生徒は1割にも満たなかった。中には、全く何も書き出せない生徒もいた。

そこで、実際にまとまった英文で自分の考えや気持ちなど、言いたいことを話したり、書いたりして表現できるようにするためにはどうしたらよいか継続的に取り組むこととした。新出言語材料を適切に用いて正しく表現する練習を充実することと並行して、まとまりのある例文を何度も繰り返し使うことで徐々に文の構成や表現方法などの技法を知り、表現力がつき、ある程度の分量を書けることが自信になって書く意欲につながるのではないだろうかと考え、話すことや聞くことから書くことへとつなげる指導法を工夫した。

### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

- ・自分の学校を紹介する活動等で、自ら既習表現を使い、伝え合おうとする。  
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・have been to, It is ~ for ~ to, how to等を用いて、印象に残る場所や学校生活等について互いに質問や応答をしたり、読み手を意識しながら文のつながりや構成を考えて文章を書くことができる。  
(表現の能力)
- ・ウェブサイトにある学校向けプロジェクトについて説明している場面の対話文の概要、要点を理解できる。  
(理解の能力)
- ・have been to, It is ~ for ~ to, how to等を用いた文の意味・形・用法を理解し、適切に運用できる。  
(言語や文化についての知識・理解)

#### (2) 指導上の工夫点

##### ① “Let’s Speak English”タイム

授業の最初の3分間で1つのテーマについて下記の4つのサイクルを1ヶ月程度継続させ、このサイクルを繰り返す。

- ・1つのテーマに沿った対話文の練習を繰り返し行う（穴埋めワークシートの活用）  
……………形式の指導
- ・対話の答えの部分をまとめ、スピーチをする（応答文をまとめたスピーチ形式）  
……………内容の指導
- ・スピーチに追加や変更をして5～6文程度にまとめて書く（ブレインストーミング）  
……………論理的構成の指導
- ・違うテーマで応用した文章を書く（新しいテーマへの適用）  
……………応用の指導

- ② 教科書本文を用いたスキットやロールプレイ
  - ・教科書本文の内容に類似した短いスキット作り
  - ・穴埋め型のスキット作り
  - ・自由なスキット作り
- ③ 評価の工夫
  - ・インタビューテスト（パフォーマンステスト）
  - ・進歩の状況が分かりやすい励みとなる評価（自己評価、相互評価）
  - ・採点基準の事前通知（教師による評価）

<b>B-1</b>	<b>“Let’s Speak English”</b>
------------	------------------------------

<b>B-2</b>	<b>形式の指導</b>
------------	--------------

<b>B-3</b>	<b>論理的構成の指導</b>
------------	-----------------

### 3 指導の実際

- ・”Let’s Speak English”タイムの継続      — 毎時間 —
- ・新出文型を取り入れたスキット      — 第1・2・3次の1時 —  
 《Have you ever visited Osaka? に続けて会話をしてみよう。》  
 《恐怖の体験「～がこわい」という会話を完成しよう。》  
 《新しいことにチャレンジ（how to+動詞の原形の導入）》
- ・教科書本文の聴解、読解      — 第1・2・3次の2時 —
- ・単元のまとめの作文      — 第4次 —  
 《学校の紹介文を書こう》

<b>C-1</b>	<b>指導案（単元計画）</b>
------------	------------------

<b>C-2</b>	<b>指導案（本時）</b>
------------	----------------

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

生徒は練習した英作文はほぼ覚えて言えるようになり、書くこともできるようになった。ブレンストーミング、文の構成、及びモデル文の練習をすることで、論理的思考の育成のための土台作りとなったようである。まとまりのある文とは何かをつかみ取らせることができたので、英文を書くことへの抵抗感が減った。今では次のテーマが早くほしいと挑戦意欲が高まった生徒もいる。

文型の導入などで、ロールプレイやスキットを継続して取り入れてきたことにより、多様な表現を使えるようになってきた。ALTとの対話でも臆せずに話す生徒が増え、インタビューテストにおいて「いろいろな質問に答えられるようになりたい」「質問もしたい」という動機付けにつながった。

#### (2) 課題

新しいテーマで書くことになったときにどこまで対応できるかは、この学年ではまだ検証されていないので、今後も基本となるモデル文をもっと多様なパターンで練習し、様々な文が書けるかどうか検証する必要がある。また、パターンを利用した作文を使つての対話からスピーチの段階をさらに、時間をかけての自由作文、読みものの要約や感想文、ディスカッション、ディベートの活動へ発展させたい。

必要な語彙、綴り、文法などの言語知識が不足しているため、本当に書きたい自分の気持ちや考えはまだ書けない。日常の授業で、基本的な文法事項と語彙、多様な表現方法などの知識の定着の工夫が必要である。

<b>D-1</b>	<b>作文例</b>
------------	------------

<b>D-2</b>	<b>意識調査結果</b>
------------	---------------